

国分寺まつり会場

<令和4年11月12日(土) 9:00~14:00 / 雨天翌日>

配置図



*配置は当日換わることがあります。

主催; 国分寺まつり in 遠江 実行委員会 / 協力; 中泉地区自治会

*史跡公園内北側は、史跡整備のための工事中ですので、立入禁止です。ご協力のほど、宜しくお願いします。

*駐車場は十分ありませんので、公共交通機関・徒歩にて、ご来場下さい。

国司一行 一之宮小國神社 勅使参向行列

国分寺通信

楽しいモノがいっぱい!
美味しいモノがいっぱい!

天平時代、磐田の地に遠江国府・遠江国分寺が建立され、国司・桜井王が赴任し、聖武天皇の勅使として一之宮の小國神社に参向したとき、国司一行を迎え、「舞楽」を舞い歓迎したと記されています。舞楽は、文武天皇の時代・大宝元年(701)に仏教の教えを舞いに具現化したものが小國神社と天宮神社に共に伝来しました。二社一体をなし、雅楽の手法で云う「左方・右方」に当て嵌め、遠江一円の思想的宇宙空間を天台密教の世界観「金胎両界曼荼羅宇宙」を表現しています。宮中の儀式や寺社の法事・神事はもとより、多くの事象で披露されていました。都から赴任してきた桜井王が小國神社を訪れた当時参向行事を再現しました。「国司一行・一之宮小國神社勅使参向行列」を是非、ご覧下さい。



きんたいりょうかいまんだらうちゅう

オリジナル天平衣装 天平時代の衣装を再現!



遠江国分寺まつりでは、様々な着物地を使用して、オリジナルの天平衣装を再現しています。

天皇の礼服は「袞冕(こんべん)」と呼ばれる特別なもので、即位式や東大寺の大仏開眼など特別な行事の折に身に着けられました。上着の下のプリーツスカート状の「褶」を着け、紫の組み帯を締めた様は、威風堂々とした天皇の衣装に相応しいものです。

大嘗祭や元旦など重要な祭祀の時に着る「礼服」、公事と呼ばれるものをする時に着る「朝服」、特別な官位を持たない官人が朝廷の公事を行う時に着る「制服」がありました。身分の高い貴族女性や宮廷で働く女性が身に着けていたのが朝服。長いひだのあるハイウエストのロングスカートや腰の前で蝶結びにした帯が礼服に比べ、軽やかで華やいだ印象です。



小國神社の十二段舞楽/演目

「連舞」「色香」「蜂舞」「鳥舞」「大平楽」「新まく」「安摩」「二の舞」「抜頭」「陵王」「納蘇利」「獅子舞」



小國神社(森町)は、遠州地方では誰でも知っている有名な古刹です。小國神社の御祭神「大己貴命(おこなむちのみこと)」は神話に登場する心優しい「縁結びの神さま」として広く知られています。

国分寺まつりで「万葉歌会」を行います。皆さんから短歌を募集して、優秀な短歌を当日会場で表彰します。(詳しくは下記のQR...)

「協賛金」募集のお願い!

・みんなで作る、こだわりの国分寺まつり、
「協賛金」募集のお願い!
みんなのちからを併せて、頑張りよう!

*詳しくは、「国分寺まつり in 遠江」のホームページをご覧ください。

<https://totoumi-kokubunji.site/index.htm>

